

日本文化にみる〈ふね〉

古来より〈ふね〉の発達により、すべての「もの」が移動範囲を広げてきました。とくに島嶼国家である日本では、〈ふね〉がなかったならば、今の文化は形成できなかつたでしょう。また、〈ふね〉は、人々に様々な発想も与えました。宇宙船から空想の乗り物まで、〈ふね〉は多岐にわたって解釈されていきます。本講座では〈ふね〉について、文学と歴史の視点からみていきます。〈ふね〉をどのように定義するかは各講師にゆだねます。

〈ふね〉とは何か、それぞれの分野からの見解をお楽しみください。



1 開講日時

7月21日 **火** 28日 **火** 30日 **木**

午前10:15~12:00

2 講座内容

第1回

船上の「文」——森鷗外『舞姫』

講師：福田 涼 准教授

★図書館利用ガイダンス10:15~10:30 (15分)

日本へ向かう「舟」の「中等室の卓のほとり」で、帰朝する洋行エリート・太田豊太郎によって書かれた「文」——森鷗外『舞姫』は、このような体裁を取る小説です。本講座では、「舟」に関する記述や、船舶を主力とする国際輸送をめぐる事情などに注目しながら、『舞姫』を多角的に読み直します。豊太郎とエリスの「悲恋物語」という枠組みを超えた、『舞姫』の「小説」としての仕掛けを、一緒に探ってゆきましょう。

第2回

広島藩の御触書にみる「船」

講師：杉山 聖子 准教授

★文書館利用ガイダンス10:15~10:30 (15分)

江戸時代の村役人が作成した村方文書の中には、幕府や藩が出した御触書などの法令を、書き留めた記録が多く残されています。広島藩が賀茂郡の村々に向け出した御触書のなかには、御座船、御公船、廻船、異国船、他国船、難破船等々、様々な「船」がみられます。この講座では、そうした御触書のなかの「船」を紹介しながら、統制や支配の背景について考えます。

第3回

未知の世界へ誘う〈ふね〉

講師：目黒 将史 教授

★図書館利用ガイダンス10:15~10:30 (15分)

人々は〈ふね〉に乗り、未知なる世界へ渡ってきました。『宇津保物語』の俊蔭は波斯国に流され、「木の空洞（うつほ）」で生活します。また、安倍頼時や源為朝は、自分の居所を求めて〈ふね〉に乗り、未知の世界を知ります。さらに室町物語『巖島の本地』などでは、神々も〈ふね〉により日本へ渡ってくるのです。本講座では、日本古典文学の立場から、漂流の物語や空舟（うつほふね）など、〈ふね〉による未知（異世界）との邂逅を考えます。

3 場所

広島県立文書館研修・会議室

(広島市中区千田町3丁目7-47 広島県情報プラザ2階)

4 受講について

受講料：**無 料**

対象者：日本の歴史や文化に関心をもつ方

定員：先着40名

5 お申し込み

下記のURLまたはQRコードより申込フォームにアクセスし、お申し込みください。

URL：<https://forms.office.com/r/TJxZPe7S1g>



【締切】
7月2日(木)
17:00

【お問い合わせ】

所在地：〒734-8558

広島県広島市南区宇品東一丁目1番71号

メール：renkei@pu-hiroshima.ac.jp

電話：082-251-9534(平日9時~17時)